

リーディングDXスクール事業【実践事例】

世田谷区立中丸小学校

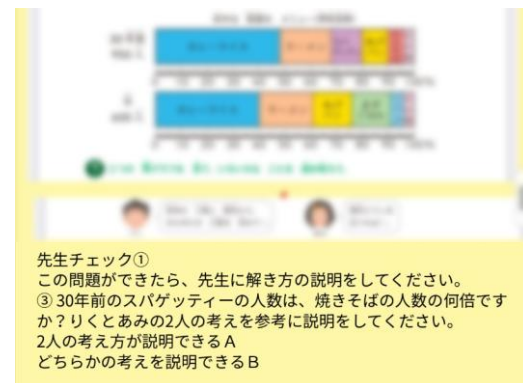
【取組内容】 算数科における学び方の変容と働き方改革

【現状と課題】

区が行っている学力調査の結果より、算数科における習熟に差が見られた。また、本校教員の4分の1が、教員歴3年未満の若手教員であり、日々の授業準備に負担感を感じており、児童主体の学びに向けた授業改善が進まなかった。そのため、算数科の学習指導について、GIGA端末を活用し、教員への負担を減らしつつ、習熟の差がある児童が協働的に学び合いながら、それぞれの課題に応じた個別最適な学びも一体的に行うことができる、児童主体の学習に重きを置いた授業づくりを行う。

【取組内容】

教員が作った学習シートを活用し、それぞれの学力に応じた学習に取り組むことができるようにした。また、学習支援ソフトにより一人一人の学習進捗を把握できるようにして、教員が学習支援をしやすい環境づくりを行った。児童は、分からなければ教員に聞いたり、友達と協働して取り組んだりするなど、児童が選択して学ぶことができるようにした。学習シートの中には、定期的にミッションとして協働して学習する問題を設定し、児童同士で説明することで考えを言語化し、アウトプットする活動を行った。また、協働して活動する際に、相手からサインをもらうなど、ミッションの中にゲーム性を取り入れて、児童が学習に取り組みやすいように工夫した。これらの学習カードを、教員間で相談して作り、同じものを共有することで、若手教員への教材研究や授業の在り方を指導しながら、時間を短縮して授業準備をすることができると考えた。



リーディングDXスクール事業【実践事例】

世田谷区立中丸小学校

【取組内容】 算数科における学び方の変容と働き方改革

【児童の変容】

児童に学習方法や学習形態が変わったことから違和感を感じていないかアンケートをとった。その結果、自分のペースでどんどん進めるからよい。分からないことを友達に聞いたり、先生に聞きにいける空気感があったりしてよい。また、友達とコミュニケーションを取れたり、早く終わっても誰かを待たなくてもよかったりというところがいいという意見があった。しかし今までは教えてもらっていたことを自分たちで解決して行かなきゃいけないところに不安があるという感想もあったので、改善を重ねていく。

【教員の変容】

自分たちで学び合う時間をつくり、意欲的に学習に取り組める授業づくりを意識するようになった。また、授業を教員同士で一緒に作り上げることで学びになった。



リーディングDXスクール事業【実践事例】

世田谷区立中丸小学校

【取組内容】 低学年からのタイピング指導

小学生向けのタイピング練習サイトを活用しながら、日常的にローマ字入力に慣れ親しむことで、児童のタイピングスキルを向上させることができた。学級の児童のローマ字入力速度の平均を取ったところ、**1分間で約67文字入力できるようになった。（小学校3年生）**

タイピング指導で意識したポイントは、以下の3点である。

「ポイント①」 ローマ字練習ドリルと並行したタイピング練習

朝学習の時間等を活用し、ローマ字練習ドリルに取り組んでから、タイピング練習を行うことを続けてきた。ローマ字を覚えることがタイピング力の向上につながることを児童が実感し、ローマ字を書く練習への意欲も高めることができた。

「ポイント②」 スモールステップでのタイピング練習

小学生向けのタイピング練習サイトを活用し、スモールステップで練習を進めた。最初はキーの配置を覚えるために、キーボードの中段、上段、下段に分けて練習を行った。次に各指の動かし方を覚えるために、指別の練習を行った。ホームポジションを意識して指を正しく動かせるようになってから、速さを意識したタイピング練習を進めていった。

「ポイント③」 学習の振り返りを中心とした日常的なローマ字入力

タイピングサイトでの練習は視写して入力をするが、学習で活用する際には、思考しながら入力するので形式が異なる。学習支援ソフトを活用して、学習の振り返りをローマ字入力で行い、提出することを日常的に取り入れた。その結果、何文字書けたかもすぐに分かる上、他の児童の振り返りをすぐに共有することもできるようになった。



リーディングDXスクール事業【実践事例】

世田谷区立中丸小学校

【取組内容】 動画教材を授業に生かす

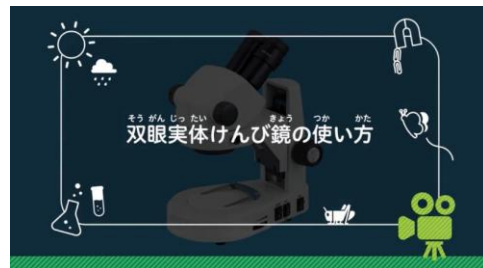
【成果】

教科書の二次元コードからアクセスできる動画や教員が自作した動画を活用して、少ない授業準備の時間で質の高い映像を使えるようになった。

【使用場面】

①手順を確認するとき

家庭科ではミシンの使い方、理科では顕微鏡の手順を確認するなど初めての学習道具を扱う際に、動画教材を利用する。



②実際に観察が難しいものを見る

理科の星空観察や月の動きなど日中の学習時間には観察が難しい単元がある。そのときに動画教材を使用することで、昼間でも夜の月の動きなどを観察することが可能になる。

社会科で働いている人について調べる際に、写真だけでは実際に何をしているのか分かりづらい部分もある。動画教材を利用することで、どのように働いているかなど多くの情報を得ることができるようになる。

【教員や児童の変容】

今までは教員が口頭で説明することが多かったが、動画を見せるという選択肢が増えたことで、指導の幅を広げることができた。また、児童が動画を繰り返し視聴することが可能になったため、繰り返し見る中で自分のペースで理解をしていくことが可能になった。

リーディングDXスクール事業【実践事例】

世田谷区立中丸小学校

【取組内容】保護者向け文書作成

【成果】

紙で配布していたものを保護者向け連絡システムにより、配信することで手間が少なくなり、時間を有効活用ができるようになった。

【取組】

学級だよりなど、保護者通知文や行事の実施要項など、クラウドシステムで共有して編集、供覧した。

①学校だよりなどを保護者向け連絡システムで配信した。

②学級だよりなど一部紙での配布を引き続き可能にし、教員が選択できるようにした。

【教職員の変容】

①手間がなくなることで時間を有効活用できるようになった

配信ができるようになったことで、「印刷」をするという手間がなくなり、その分を別の仕事の時間に充てることができるようになった。以前は、印刷をするために順番を待つこともあったが、今では時間をかけるべきところにかけられるようになった。

②紙やインクの使用を減らし、別の場所に予算を使えるようになった

「印刷」することがなくなったことで、紙やインクなどの資源も使う頻度が少なくなった。その分の学校予算を別に使うことができるため、学校環境整備に充てることができるようになった。

③配信と配布を使い分けることで、伝えたい人に確実に情報が伝わるようになった

配信することは「選択肢の1つ」であり、配布をすることもある。学級だよりに次週の予定を載せているときは、配信とともに、配布もすることで保護者にも児童にも情報を伝えることができるようになった。